

令和7年 第10回大崎市教育委員会定例会会議録

1 招集期日	令和7年10月23日(木)	開会 午後2時30分	閉会 午後3時28分	
2 招集場所	本庁舎 306会議室			
3 出席委員等	教育長	熊野 充利	教育長職務代理者	青沼 陽一
	委員	佐藤 寛	委員	堀 智恵子
	委員	伊藤 亜希		
4 欠席委員	委員 早坂正年			
5 傍聴者	なし			
6 事務局職員出席者	教育部参事	菅原 栄治	参事兼教育総務課長兼室長	平地 久悦
	学校教育課長	新堀 秀一	参事兼生涯学習課長兼室長兼館長	中川 早苗
	文化財課課長	高橋 誠明	参事兼地域交流センター長	早坂 浩治
	図書館館長	横山 一也	生涯学習課長(市民ギャラリー担当)	佐々木 法由
	学校教育課副参事	千葉 弘昭	図書館副参事	橋本 知子
7 書記	教育総務課課長補佐	菊池 勝行	教育総務課主幹兼係長	本間 陽子
8 議事	<p>議 事</p> <p>議案第39号 コミュニティ・スクールの今後の方向性について</p> <p>議案第40号 大崎市外国語指導助手派遣業務公募型プロポーザル審査委員会設置規則について</p>			

1 開会	教 育 長	<p>ただいまから令和7年 第10回大崎市教育委員会定例会を開催いたします。</p> <p>出席委員定足数に達しておりますので、本定例会は成立いたしました。これより会議を開きます。</p>
2 会議録承認	教 育 長	<p>はじめに、令和7年 第9回定例会会議録の承認を求めます。</p> <p>内容について、ご異議ありませんか。</p> <p>(「異議なし」の声あり)</p> <p>ご異議ないものと認め、会議録を承認いたします。</p>
3 会議録署名委員指名	教 育 長	<p>次に、本日の会議録署名委員を指名いたします。</p> <p>堀委員、お願いいたします。</p>
4 諸報告	教 育 長	<p>本日、早坂委員より、欠席する旨の届け出がありましたので、ご報告いたします。</p>
5 傍聴者	教 育 長	<p>本日の教育委員会定例会への傍聴者については、おられないことを報告いたします。</p>
6 教育長報告	教 育 長	<p>続いて、私から教育長報告をさせていただきます。</p> <p>だいぶ秋も深まってまいりましたが、幸いにして天候による影響も少なく、実りの季節を迎えております。今日、運動会を行っている中学校もありました。</p> <p>それでは、はじめに学校関係についてご報告いたします。</p> <p>小中学校では、10日に1学期の終業式が行われ、児童生徒は約100日間の学校生活を振り返り、15日から2学期が始まり、目標を新たにし、また、元気な笑顔で学校に活気が戻ってきたところでございます。</p> <p>10月からA I ドリルの導入が始まり、一人一人の子供たちの確かな学力向上に向けて、「1・2・3運動」を各学校に指示したところです。家庭教育の重要性にも目を向け、基本的な生活習慣が子供たちの力を引き出す原動力になることから、家庭の協力を訴えながら取り組んでまいります。</p> <p>また、人の成長には体力づくりが欠かせないことから、今年度も「おおさきWeb長縄跳び大会」に取り組んでまいります。</p> <p>子供たちの活躍についても、報告させていただきます。</p> <p>9月20日に算数チャレンジ県大会があり、大崎市から過去最高となる5チームが参加しましたが、残念ながら入賞を逃しました。子供たちは惜しさを味わい、今後の成長にもつながっていると思います。</p> <p>また、県のプログラミング大会では、古川第三小学</p>

校6年の矢端千佳さんが最優秀賞を受賞しました。

そして、大崎市民憲章書道コンクールでは、古川第二小学校4年の神田ことこさん、古川西小中学校9年の高橋朋輝さんが最優秀賞を受賞しました。

さらに、北部管内中学校弁論大会 西地区では、鳴子小中学校8年の北浦篤史さんが最優秀賞、東地区では田尻中学校3年の佐藤花笑(はなえ)さんが優秀賞を受賞しました。

これからも様々なコンクールがあります。文化面での活躍も大きに期待しているところです。

また、教職員も表彰を受けましたので報告いたします。

主として国語教育に関する賞で、第56回「博報賞」におきまして、古川第五小学校講師の早坂和枝先生が、博報賞の中でも最高位にあたる文部科学大臣賞を受賞しました。

いままでの「ことばの教育」での実践が高く評価されての受賞であります。大きな拍手を贈りたいと思います。

次に、10月5日に大崎市図書館を会場に開催しました「大崎地域俳句大会」についてご報告いたします。

本大会は、俳句のユネスコ無形文化遺産登録を目指す活動として行われたもので、大崎地域だけではなく県内や北海道からも応募があり、投句数は807句にも上りました。

昨年度に引き続き、大崎管内の小学4年生から中学3年生を対象としたジュニアの部もあわせて開催し、管内の小・中学校18校から392句もの投句がありました。ジュニアの部の特選は大崎市教育長賞とし、受賞した6名の子供たちに私から表彰を行ったところです。

また、10月11日には化女沼古代の里にある古川出土文化財管理センターを会場に「子ども考古体験」を開催しました。

朝から小雨が続いたことにより、33名と例年に比べて少ない参加者となりましたが、親子での勾玉づくりや火起こし、弓矢体験などを体験していただきました。

次に、明るい話題について報告いたします。

去る8月20日に岩手県北上市で開催された「スコップ三味線 ワールドカップ2025 in 岩手」において、古川地域を活動拠点としている「スコップ三味

線 希楽々(きらら)」の皆様が、見事、団体の部で優勝という成績を収められました。

また、9月27日に仙台市の「シェルコムせんだい」で開催された「楽天イーグルス杯ミズノキッズベースボール宮城大会」において、古川地域を活動拠点としている「古川スワローズスポーツ少年団」の皆様が、見事優勝という成績を収められ、来る11月8日に開催される東北大会へ出場されますことを、ご報告させていただきます。

次に、体力・運動能力調査についてご報告いたします。

この調査は、スポーツ庁からの調査依頼を受け、毎年実施しており、今年は8月26日に高齢者30名、9月20日に成年者42名の参加をいただき、調査を実施したところです。

つづいて、市民ギャラリーの事業についてご報告いたします。

9月24日から28日まで開催した「第72回河北書道展大崎展」は、書作品約160点を展示し、約350名の方にご来館いただきました。

また、オープン・アトリエ「公開スケッチ・人物を描く」を開催し、気軽に様々な方が参加し、人物画の描き方を学びました。

次に、寄附採納についてご報告いたします。

このたび、一迫(いちのはさま) 浄(じょう) 様、一迫(いちのはさま) 玲(りょう) 様から寄贈として、祖父である一迫(いちのはさま) 直人(なおと) 様が鎌田三之助翁(おう)から贈られた表彰状をいただきました。

表彰状につきましては、学校教育・社会教育の学習素材として、活かしてまいります。

また、鳴子小中学校統合に伴う改修工事の施工業者である株式会社ODK様から、学校施設環境整備としてルームエアコン2台の寄贈いただきました。

寄贈いただいたエアコンにつきましては、児童生徒の熱中症対策として、有効に活用させていただきます。

以上、教育長報告とさせていただきます。

教 育 長

ただいまの教育長報告について、何かご質問はございませんか。

(なしの声)

教 育 長

それでは質疑がないものと認め、教育長報告につき

		ましては以上とさせていただきます。
7 議事	<p>教 育 長</p> <p>学校教育課長</p> <p>教 育 長</p> <p>学校教育課副参事</p>	<p>続きまして議事に入ります。</p> <p>初めに、日程第1 議案第39号「コミュニティ・スクールの今後の方向性について」を議題といたします。</p> <p>学校教育課長、説明願います。</p> <p>それでは、議案第39号、「コミュニティ・スクールの今後の方向性について」ご説明いたします。</p> <p>まずコミュニティ・スクールは、学校運営協議会制度を導入した学校を指しておりますが、平成29年4月1日の「地方教育行政および運営に関する法律」の一部改正により、学校運営協議会の設置が努力義務化されているところでございます。</p> <p>学校運営協議会は、教育委員会によって学校や地域の実情に応じて学校に設置されますが、複数の学校で一つの協議会設置も可能となっております。</p> <p>教育委員会定例会資料の2ページをご覧いただきたいと思いますが、令和7年度には三本木地区で小中で一つの学校運営協議会を設置している状況でございます。</p> <p>定例会資料の3ページに記載をしております、「大崎市コミュニティ・スクールの進捗状況について」の「3 設置状況と今後の見通し」について、令和15年までの見通しを記載しているところでございますが、次に記載しております「4 今後の学校運営協議会設置に向けた方向性」について、委員の皆様にご意見を賜りたく、お願いを申し上げます。なお引き続き、学校教育課 千葉副参事の方から資料に沿って、要点をかいつまんで説明をさせていただきます。</p> <p>それでは学校教育課副参事、引き続き説明をお願いいたします。</p> <p>それでは資料2ページをご覧いただきたいと思いますが、まず2ページ目につきましては、今年度設置いたしました三本木地区のこれまでの進捗状況について示しております。</p> <p>「2 第1回学校運営協議会」ですが5月21日に開催されました。2回目が先日、10月21日に開催しております。</p> <p>1回目の学校運営協議会では、三本木小学校長、そ</p>

れから三本木中学校長から、それぞれ学校運営の方針の説明をしたところでございます。その場で学校運営協議会の委員の皆様へ承認をいただきまして、スタートしたところでございます。

「3 アクションプランについて」をご覧いただきたいと思っております。アクションプランにつきましては、それぞれ小学校長、中学校長より説明をいただきました。(1)の②に示しておりますが、三本木小学校長からは、防災マップ作りを5年生で実施していきたいということで、また、その中で地域の方とぜひ一緒に活動できないかという様なご提案がございました。(2)の①に示しておりますが、三本木中学校長からは、地域の大人と今の中学生が接する機会が非常に少ないと感じているとのことで、地域で実施している活動や行事に中学生がボランティア等で参加できないかという様なご提案をしたところでございます。

そのようなご意見につきまして、「4 学校運営協議会委員からの主な意見や提案」にて示しておりますが、学校運営協議会の委員からは、地域で行っているボランティア活動であったり、あるいは夏祭りであったり、あとはひまわりが非常に有名でございますので、花を育てるイベントなど、非常に前向きな提案をいただいたところでございます。その成果につきましては、次の3ページ目で後ほどお話をさせていただきます。

「5 令和8年度コミュニティ・スクール設置予定校と設置に向けた予定説明回数」についてですが、令和8年度は古川第5小学校と、それから当初は古川北小学校の2校の予定でしたが、先日、古川北中学校から、ぜひ小学校と一緒に立ち上げたいということでお話をいただきました。

古川第5小学校で一つの学校運営協議会、それから古川北小学校、中学校で一つの学校運営協議会を来年度の設置に向けて準備を進めているところでございます。

「6 令和7年度の研修会」についてですが、今年度につきましては、12月3日午前10時から、コミュニティ・スクールの研修会がありまして、県のスーパーバイザーの方にも来ていただいて、市内の小中学校の管理職、それから学校運営協議会の委員等にご参加をいただく予定になっております。

資料3ページをご覧いただきたいと思っております。「大崎市が目指すコミュニティ・スクールの姿」ということ

で、主体的に考え、未来を切り開いていく子供の育成を目指した、学校、地域、家庭が連携・協働し、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを目指していきたいというものを示しております。

下段の、1の(2)をご覧くださいと思います。先ほど「アクションプラン」についてお話をいたしました。小中学校の校長からお話をいただき、それに対して学校運営協議会から前向きなご意見をいただき、実際に今年度行った成果がこちらに記載されております。小学校では5年生がデジタル防災マップ作りを行い、消防士、保護者、「三本木と学校を繋ぐ会」の方々にご協力をいただき、「防災探検隊」として地域の方と一緒に地区を歩き、実際に子供たちが目で見、マップを作成しているところでございます。

二つ目の黒丸につきましては、先ほどお話しました夏祭りのボランティアということで、学校の方で中学校3年生を対象に募集をかけたところです。

別室登校をしている女の子2名がいるのだそうですが、その2名が自主的にこちらに応募したそうです。そして夏祭りで焼きそばを焼いたということで、地域の方から「美味しいね」や「ありがとうね」という声をたくさんかけていただいたようで、2人にとっても、非常に自己肯定感が高まり自信に繋がったようです。その2人は夏休み以降は別室ではなく、通常の学級に現在も登校しているという、嬉しい報告を先日受けたところでございます。

「3 設置状況と今後の見通し」をご覧くださいと思います。

令和8年度は、先ほどお話をしました二つの学校運営協議会を立ち上げる予定でございまして、令和10年度までに、10校の設置を目標に今後進めていきたいと思っております。令和15年度までには、全校での設置を目標としているところでございます。

先ほど課長からお話ありました「4 今後の学校運営協議会設置に向けた方向性」について、後ほど、ご意見をいただければと思います。設置に向けた方向性としては、旧古川市内の学校については、1校ごとに学校運営協議会を設置していければと思っております。上記以外の地区については原則といたしまして、中学校区の小中で一つの学校運営協議会、三本木小中や古川北小中と同じような形で進めていくのが良いかと考えているところでございます。

		<p>今後の課題といたしましては、学校運営協議会を設置する上で、委員の人選というのが非常に大切と考えております。それから予算の確保、あとはコミュニティ・スクールをこれからどんどん推進していく上では、関係課あるいは学校との調整を行うコーディネーター的な役割の職員も必要かと考えているところでございます。</p> <p>次の4ページ目、5ページ目につきましては、文科省から全国の最新の事例が送られてまいりましたので、こちらの二つを取り上げたところでございます。</p> <p>4ページ目は大分県の豊後高田市の事例でして、児童生徒と、それから地域の方々と一緒にサツマイモや菊を育てる体験を行っているようです。</p> <p>そちらを今度は子供たちの方が料理を地域の方々に振舞っているというような体験活動でございます。</p> <p>次のページは、埼玉県小鹿野町というところですが、縁日や地域の伝統的な行事をもう1度盛り上げたいという子供たちの声がありまして、地域の方々が全面的に協力をして催しを行い、非常に大盛況だったという取り組みの事例でございます。</p> <p>いずれも右下にアンケート調査の結果が載っておりますが、シビックプライドの醸成や、郷土愛など、体験活動によって上がっているというのが示されております。私からは以上でございます。</p> <p>教育長 ただいまの説明に対しまして、何か質疑があればお願いいたします。</p> <p>青沼委員 今回、議題として出ていますが、これはどのような形で承認ということになっていくのか、協議の内容について伺います。</p> <p>学校教育課長 資料の3ページ下段の「4 今後の学校運営協議会設置に向けた方向性」につきまして、こちらで2点ほど上げさせていただきましたが、進め方について委員さん方のご意見をいただければと考えております。</p> <p>青沼委員 前にも話しましたが、私が12年前にこういう仕事に就いた頃から協働教育、さらには学校運営協議会の話もコミュニティ・スクールもその頃はすでに話題に出ていまして、どのように進めたら良いかということで、色々と試行錯誤をしておりました。</p>
--	--	--

校長、教頭への研修会が12月3日に開かれるとの事ですが、教職員がどれだけ理解するかということもとても大きな事だと思います。

ひとつ間違えると、教職員の中に反対する人も出てくる可能性がある。「余計な仕事が増える」という考えの人もいらっしゃるわけです。

学校現場がかなり厳しくなっている状況ですので、そういった意味でも、理解を得るための研修は必要です。

私が担当していた頃は、研修会を毎年岩出山の大会議室で行っていて、各学校から100名ほど出席しておりました。校長、教頭への理解というのももちろん大事ですが、それが教員に伝わらなければ本質的な進め方はできないと思っています。私も非常に苦勞した記憶があります。

それからもう一つ、地域への理解、この両面です。

ここをどう進めるかということです。

形上「こうしてください」と言って、地域の人との話し合いをした。それで「やりました」というレベルではなかなか厳しい。そう私は考えています。

ちょっと余談ですが、私が担当した頃に、各学校に学校支援ボランティアの組織がありました。

調べてみたところ、さきほど話が出たさつまいもを地域の人と育てたとか、色々な事をたくさんやりました。

ですがその裏で、今言ったコミュニティが崩壊するのではないかという私個人の危機感がありました。そして実際に崩壊しています。

ある学校で、地域学習で、スーパーに行くのに協力してほしいという事があったのですが、協力してくれる人が一人もいなかったという現状の学校もあるようです。

その危機感があったものですから、そういったこともまとめて進めていたつもりなんです。これについては前は生涯学習課に担当がおりましたが、今は学校教育課が担当として、一貫して学校運営協議会という形になったので、それを入口にしながら今後さらに進めていく事が大事だと思っています。

私が言いたかったのは、まず第一点は教職員への理解、そして地域への理解、共通理解、これが無ければ学校運営協議会は成り立ちません。

そうでなければ委員の方がギブアップします。その

		<p>くらい重たいものであって、地域コミュニティはそれだけかなり厳しい状態にあるというのは皆さんもご存知の通りです。</p> <p>ですから、そのあたりをどう考えるか。</p> <p>最後にひとつだけ、今、三本木小中学校で今度は北小中学校、そして第五小学校、これの一般化ができないと意味がありません。それについてはどのようにお考えなのか。年次計画を見ましたが、令和15年まであと8年ありますが、どう見据えていくかというのをしかと持たなければならない。それだけ自分が苦しかったものですから、その辺もどう考えているかお聞きしたいと思ってました。よろしく願います。以上です。</p> <p>貴重な提言をいただきました。今後十分に検討していく内容だと理解しておりますが、付け加えて何かあればお願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。青沼委員のおっしゃる通りで、教職員と、それから、できるだけ多くの地区の方々にお話をする機会をとということで、まず昨年度は各地区の区長さんの会議の際にお伺いいたしまして、コミュニティ・スクールについて説明をしてきたところでございます。</p> <p>それから今年度スタートいたしました、三本木地区のコミュニティ・スクール導入の準備ということで、「三本木と学校を繋ぐ会」の会議の際にお伺いしまして、コミュニティ・スクールについて説明をさせていただきました。それから校長先生、教頭先生はもちろんですけれども、三本木小、中学校の教職員にもその場を作っていただきまして、先生方にもご説明をして、ご理解をいただいたところでございます。また、保護者会の開催の時にもお伺いをいたしまして、保護者の皆様にもコミュニティ・スクールについて説明をしたところでございます。</p> <p>そして今年度、古川第五小学校と古川北小、中学校の準備段階のこの時期といたしましては、まず古川第五小学校につきましては校長先生、教頭先生の研修、それから教職員への説明、あとは学校からのご依頼で、民生委員さんの集まりがありましたので、そちらに私もお伺いさせていただいて、コミュニティ・スクールについて説明をさせていただいたところでございま</p>
	教 育 長	
	学校教育課副参事	

		<p>す。今後は保護者会が2月にございますので、そちらで説明をいたします。</p> <p>古川北小学校につきましても、管理職、それから教職員への説明は終わっておりますので、今お話いただきましたように、色々な場面でコミュニティ・スクールについての理解を広めていかなければいけないと考えておりますので、あらゆる場面でそういった機会がありましたら、足を運びまして説明をしてご理解をいただくようにしていきたいと思っております。</p> <p>それから、今後の方向性といたしましては、まずは令和10年度までに、10校の設置を目標としておりますので、国の色々な予算関係の部分も絡んできているところですが、まずは今年度、コミュニティ・スクールの研修会を12月3日に行いまして、校長先生方、教頭先生方にご理解をいただきながら、そして予算等の課題等もございますので、関係課ともお話をしながら、進めていければと思っております。</p> <p>青沼委員</p> <p>ひとつだけ。今は三本木が一本釣りのような形になっていますが、私がさっき言った、一般化というか、全部の学校で設置という方向で教育委員会のスタンスがあるわけなので、さきほどの説明にあった、全体に対する啓発ですね。時間がかかることなので、そこは十分に検討していく必要がこれからあると思います。</p> <p>私自身も少し関わった気持ちでいるものですから、進めていくためにぜひとも頑張っていたきたいと思っております。</p> <p>教育長</p> <p>ありがとうございました。貴重なご提言をいただきました。その気持ちを十分に反映できるように私達も努力をしていきたいと思っております。</p> <p>生涯学習課で行っている協働教育と、学校教育課で今取り組もうとしているコミュニティ・スクールは、一体型になる必要があるのですが、私達も各課にただ任せただけでなく、常に意見を出し合って進めていくことが成功の鍵なのかなと思います。</p> <p>連携というのは非常に難しいことです。漢字で書くと2文字で終わるんですけどね。ここに果敢に挑戦をして、学校に明るさとか、それから繋がり楽しさとか、学ぶ意欲とか、そういうものが大いに芽生えてくれることを期待しているところです。先ほど青沼委員から「一本釣り」という言葉がありましたが、釣りをす</p>
--	--	--

る教育委員会で一本ずつ釣ったのではなくて、やりたいという学校の声を受けて、この取組みが広がってきているものであることにご理解をいただければと思います。

昨年からも十分各学校に説明をしておりますので、やがては全校において設置したいという方向性は各学校に既に示しております。様々な研修会の時にも、コミュニティ・スクールの説明を各教員にもしてきているところであります。この出来る「土俵」が見えてきたところでないと、おそらく出来ないと思いますので、何とかこの3地区、そして5地区6地区と増えていくことを願いたいところであります。なお、私達も努力をしていきますが、委員の皆様方からもですね、今後気づいたところは遠慮なく言っていただければと思います。夢中になってやっている、私達も気づかないところもいっぱい出てくるかもしれません。何とか頑張りたいと思っております。

堀 委 員

コミュニティ・スクールについて、この内容を見て思ったのですが、私のほうの小さい地域では、毎年お祭りをするんですね。区長さんをはじめ、たくさん大人がいた頃は良かったのですが、だんだんと少なくなってきていて、存続できるかどうかになってきた時に、区長さんのアイディアで、中学生や高校生を引っ張ってきて、射的とか輪投げとかルーレットとか、今年あたりは飲食の方も立たせて、販売をしてもらったりしているんです。

そうすると親たちも自然にその場に出てきて協力する。それから、売るとなると、欲が出てくるんですね。「私のところは売り切れました」とか、「もっと売っても良かった」とか。子供ながらにもそういうことを言うんです。その下地というのは子供会もありますし、それから15年以上も前の話ですが、駅伝大会の練習を毎晩スキップセンターの辺りでしていた時、大人たちが、頑張っている子供たちのために差し入れをしてくれるんですね。お金とかパンとか色々。それを欲しさにね、幼稚園児とか、子供たちがみんな参加して、選手にはならないけど、みんなで練習をするというような、やはりそういった下地になるようなものが必要だと思います。

スクールって、学校単位を大きくしてしまうと薄まっていくような気がして。先ほど人選の問題があると

ということですが、やはりそういう取り組みができる、地域のリーダーになる人とか、あとは小学校、中学校の入学式や卒業式の時に、わざわざ時間を取ってでも顔を出してくださるような人たち、そういう人たちには、この思いがあるなって思うんです。コミュニティ・スクールというのは、そういうことを広げていけばいいんだって思うのですが、ただ一点、ちょっと聞きたくないことかもしれないんですけど、割と先生方に関しては、地域には出て来られないんです。そういうイベントとか活動があっても、子供さんが小さいうちは子供のためにということで出て来られるけれども、卒業したりしてしまうと、ほとんど出て来られないんですね。本来もっとリーダーになっていただいても良い方かなと思うんですけど。そこはやはり現役の先生方には、まず自分のお住まいの隣近所のコミュニティに入っていて、そうすれば周りの人もコツをつかんで、地域でももっと進めやすくなるんじゃないでしょうか。あと校長先生方も、以前はそういう地域の夏祭りとか、行事にもっと足を運んでたと思うんですね。このコミュニティ・スクールを実施するのであれば、学校側がその地域を受け入れるための努力もしていただきたいかなというのが私の意見です。

教 育 長

ありがとうございました。今後は部活動も、土日がなくなれば先生方にも余裕が出てくるので、地域との密着性がとれればいいですよ。これは学校の先生だけじゃなくて市役所職員にも言えることかなと思います。ぜひとも地域で活躍する市の職員が増えることを願っております。

教 育 長

他にございませんか。

青 沼 委 員

学校にとって、コミュニティ・スクールのように例えば「こういう活動を一緒にしましょう」となった時、学校の教員にとっては、学校の教員の立場でいくと、面倒くさいんです。大変なんです。

一方、学校の教員の役割について、これはこれから我々の課題だと思うんですけど、学力向上と言いながら、直接これに関係してくるかどうかというところを見てください。本来はここで学んだことができるような学力感が出てくればいいんですけど、そこにぴったりいくかどうか。

		<p>学力向上の問題があるのに「そんなことしてられない」と言う人もいるということ。</p> <p>学校の教員に何を期待するのか。そんな全て神様みたいな事をできるかということは、はっきり言います。自分の息子が教員やってるからじゃないですよ。</p> <p>そんな優秀な人はいません。</p> <p>そこだけはちょっと頭に入れてほしい。今、堀さんが言って悪いけどと言ったけれども、言って悪くはありません。人間なので。</p> <p>地域に出る人も、地域に出ない人も、そこはもう人間性の問題になってくるんだけど、もう1回言います。コミュニティ・スクールを進めると、煩雑な要素がたくさん出てくるんです。色々なことをやるために、学校がそこにカリキュラムを入れるとか。そうしたら、ない方が学力が上がるという考えの人がいたら、そこで意見がぶつかります。これが課題です。</p> <p>コミュニティ・スクールを進めていくと同時に、学力との問題はもう避けられないから、議会でおそらく言う人も出てきますので、それに対してどちらを取るか答えるぐらいのスタンスでいえないといけない。だからそこは意見として言っておきます。必ずぶつかる部分があります。</p> <p>学力向上と、コミュニティ・スクールのような煩雑な要素、どちらが正しいかどうか分かりませんが、私はコミュニティ・スクールのような取組みが大事だと考えている教員の1人でした。以上です。</p> <p>はい。活動場面と、計画場面の整理は必要だと思います。その場所場所に応じたあり方を整理したいと思います。今の青沼委員の意見を大事にしながら、さらに少し肉付けの工夫も教育委員会でさせていただければと思っております。よろしくお願ひします。ありがとうございました。</p> <p>まだ計画の段階ということで提案させていただいておりますので、それを多少なりとも修正も加えながら、今後に向かいたいと思います。今の案をこのように進めてまいりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>ただいまの説明につきまして、ほかに質疑はございませんか。</p> <p style="text-align: center;">(なしの声)</p> <p>質疑がなければ、本案についてご異議なしと認め、</p>
	教 育 長	
	教 育 長	
	教 育 長	

		<p>原案のとおり決定いたします。</p> <p>教 育 長 次に、追加議案の日程第2 議案第40号「大崎市外国語指導助手派遣業務公募型プロポーザル審査委員会設置規則について」を議題といたします。 学校教育課長、説明願います。</p> <p>学校教育課長 議案第40号につきましては追加議案とさせていただきます。事前に皆様にお目通しいただくところ、当日のお渡しとなり、大変申し訳ございません。 それでは議案第40号「大崎市外国語指導助手派遣業務公募型プロポーザル審査委員会設置規則について」ご説明申し上げます。 初めに追加議案資料1ページをご覧いただきたいと思っております。 制定改廃の概要でございますが、理由といたしまして、大崎市外国語指導助手派遣業務委託するに当たりまして、公募型プロポーザル方式による審査を行うため、審査委員会設置規則を定めるものでございます。 制定改廃の要旨といたしましては、大崎市外国語指導助手派遣業務を委託するにあたりまして、公募型プロポーザル方式によりまして、審査を公正かつ客観的に行い、事業目的に最も合致した企画力及び事業の確実性ととも、創意工夫ある質の高い外国語教育の提供、実施可能な事業者を選定するため、大崎市外国語指導助手派遣業務公募型プロポーザル審査委員会の設置にかかる規則を定めまして、今後進めていくものでございます。 この大崎市外国語指導助手派遣事業につきましては、今年度で委託期間が満了しまして、新たに令和8年4月1日から令和11年3月31日までの3ヶ年で業務委託を行う予定となっております。 なお、令和7年10月21日の大崎市契約等審査会において、プロポーザル方式の採用については了とされております。 以上、提案説明とさせていただきます。ご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。以上でございます。</p> <p>教 育 長 今の説明に対してご意見はございますでしょうか？</p> <p>青 沼 委 員 これは業者を選定するための委員会ということですか？</p>
--	--	--

	教 育 長	よね。 はい。ちなみにプロポーザルというのは、業者が「うちではこんな企画でこんなことをやります」ということをプレゼンテーションをして、市に対して「採用してください」とプロポーズをする形になります。こちらではそれに審査基準を設けて、何点、何点と審査をしながら、1社に決めていくと、こんな流れであります。
	教 育 長	ほかに質疑はございませんか。 (なしの声)
	教 育 長	質疑がなければ、本案についてご異議なしと認め、原案のとおり決定いたします。
	教 育 長	本日の議事案件については以上となりますが、委員の皆さんから、ほかに何かございますか。 (なしの声)
8 閉会	教 育 長	ないようですので、以上で本日の教育委員会定例会を終了いたします。

この会議録の作成者は次のとおりである。

教育総務課 総務担当 主幹兼係長 本間 陽子

上記記録の正確なることを認め、ここに署名する。

令和 年 月 日

教 育 長

署名委員